



篠五だより

令和6年
2月29日発行
江戸川区立
篠崎第五小学校
No.13

最高にうれしい言葉

校長 山田 勇一郎

篠五小の梅の花もほころび、日差しも少しずつ春めいてまいりました。一年生が毎日世話をしているチューリップの球根も芽を大きく出して開き始めています。いよいよ今年度のしめくくりの月を迎えました。本校ではこの3学期も、ハッピースマイル集会や6年生を祝う会などの行事にチャレンジしました。どちらも今回4年ぶりに、体育館に全校児童が集まって行いました。どちらも子供たちの心・思いが通い合うすてきな会になりました。この会の子供たちの姿に、それぞれの学年のこの一年間の努力、がんばり、成長の歩みが凝縮されているように感じました。

昨年秋頃から全国的にインフルエンザが流行する中、本校は、1月まで学級閉鎖ゼロでがんばっていましたが、先月、3つのクラスが学級閉鎖となりました。そのうち、4年生のクラスの学級閉鎖前日に、教室をのぞくとちょうど閉鎖期間中の過ごし方についての話が始まるころでした。私は、中へ入って励ましのあいさつをした際に、「明日から学校へ来れないのはいやだなと思う人はいますか。」と聞いてみたところ、ほとんどの子が手を挙げました。ある子から「学校は楽しい。」との言葉があったので、どんなところが楽しいか尋ねてみると「友達と会えるのがうれしい。」「友達と話すと笑顔になれる。」という答えの後、「勉強が楽しい。」という答えがありました。学校の勉強は何がいいのか、さらに尋ねてみると「いろいろなことが分かって楽しい。」「自分の考えたことが正解だった時、うれしい。」「友達の考えを聞いていると、新しい考えが生まれてくる。」「将来やりたいことの役に立つ。」などと次々話してくれました。前日に、学級閉鎖が明けた1年生からも「みんなと一緒に遊んだり勉強したりするのが楽しい。」と同様の答えが返ってきました。

子供たちの「学校は楽しい。」の言葉に篠五小の子供たちがすくすく真っすぐに育っていると感じるとともに、一年間の締めくくりの時期に最高にうれしい誉め言葉を子供たちからいただいたと喜びをかみしめました。みんながみんな、いつも楽しいと思えるわけではありません。個々の思いに違いがあって当然ですが、休みより学校がある方がいい、学校は楽しいと言ってくれたことがうれしくてたまりませんでした。

こんな子供たちの期待に応えられるハッピースマイルな学校創りを今後も職員一同力を合わせて目指していきます。保護者、地域の皆様には、今年度も、本校の教育活動にご理解と多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。来年度もどうぞよろしく願いいたします。